

## 景域の特性を活かした景観づくり

地形、水系や土地利用、景観の特徴を基本として、原風景の5つの要素（緑・水・農・歴史・都）から、市域を5つの景観ゾーンに区分し、基本的な景観づくりの目標を設定します。

また、景観ゾーンを、景観のまとまりを持つ14の景域に区分し、それぞれの特性に合わせ、5つの原風景の要素を活かしながら、岡山らしい景観づくりを進めます。

景観ゾーン	景観づくりの目標	景域区分
自然ゾーン	○緑や水の自然景観を良好に保ちながら、市民の身近なやすらぎや潤いの場としてふさわしい景観づくりを目指す。	吉備高原 旭川上流
田園ゾーン	○広がりのある農地・歴史的な街並みや文化財・農家集落・里山の緑によって構成される景観の特徴を守り、地区の特性や資源を活かした個性豊かな景観づくりを目指す。	吉備路(高松・足守) 津高・一宮 上道 水門
干拓ゾーン	○干拓地の広大なスケールの農業景観を守りながら、水路、河川や人の営みと調和した景観づくりを目指す。	興除・藤田・灘崎 百間川下流
市街地ゾーン	○岡山市の顔となる都心地区において、中四国の拠点都市にふさわしい活気と風格のみなぎる都市の景観づくりを目指す。 ○市街地においては、市民がいきいきと暮らせる生活空間にふさわしい景観づくりを目指す。	都心 都心南部 庭瀬・妹尾 国府市場 西大寺
児島湾水辺ゾーン	○海辺や背景の山並み、海からの眺望を活かして市民に身近な水辺・水際の景観づくりを目指す。	児島湾

(※14の景域ごとの景観形成方針については、岡山市景観基本計画をご覧ください。)

### ■景観ゾーン・景域区分図

